

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム
「学校等における犯罪の加害・被害防止のための対人関係能
力育成プログラム実装」

採択年度	平成24年度
実装機関名	福岡教育大学
実装責任者氏名	小泉 令三

1. 概要

平成26年度の実績を、小中学校での実装、児童自立支援施設での実装、教育効果の測定に分けて説明する。

●小中学校での実装

小中学校での対人関係能力育成プログラム（SEL-8S）の実装に向けて、a)研究開発段階での実践校での実践の継続、b)新しい実践校の実践支援、c)実践交流会・研修会の開催、d)SEL-8S学習プログラムの改善（教材等の追加）を目指した。

その結果、a)については、平成26年度の実践継続を目指した小学校1校、中学校1校の実践継続が達成された。b)については、平成25年度からSEL8実践研究会に加入している実践校と、平成26年度に加入した実践校とを合わせて、小学校5校、中学校6校、小中一貫（教育）校2ブロック（小4、中2）において、SEL-8Sプログラムの実践をスムーズに進められるように支援した。さらに、SEL8実践研究会の実践校以外の学校においても、本プロジェクトメンバーの在籍校を含む1つの中学校ブロック（小4、中1）においてSEL-8Sプログラムの実践支援を行った。c)については、10～11月に、実践校のコーディネーター的教員を対象とした研修会を2回開催し、県外からの参加者を含む27名が参加した。6月～9月にかけて計4回（1セット2回×2セット）のSEL-8Sワークショップ（WS）を開催した。このWSでは、実践校以外で、SEL-8Sに関心のある教師や新たに自らの学級等での実践開始を希望する教師を対象にした。計4回の研修会で、18名（延べ25名）の参加があった。d)については、SEL-8S学習プログラムによる学習効果の測定に用いるアンケート用紙や集計ソフトの修正を図った。

●児童自立支援施設での実装

児童自立支援施設等における再犯防止学習プログラム（SEL-8D）の普及・実装に向けて、e)児童自立支援施設での実践継続、f)児童自立支援施設内併設の小中学校での実践継続、g)新しい実践施設の開発・支援、h)SEL-8D学習プログラムの改善を目指した。

その結果、上記 e) については、男子寮での SEL-8D 実践を継続することができた。この実践を通じて、参加児童の特徴や抱える問題点に応じたプログラムの実践、またプログラム実施の手順改善も行い h) の目的も達成された。しかしながら、f) については、施設内併設中学校での実践は、学園内の事情により実践が見送られた。g) については、SEL-8Dの修得を希望する心理士や大学院生へのレクチャー、福岡保護観察所主催の講習会実施、学会発表や SEL-8D 収録 CD の配布などを通じて普及を目指した。

●教育効果の測定

SELの効果を測定するために、表情認知検査を開発し、検査の信頼性・妥当性を確認するために、i) 集計と支援評価の支援、具体的には、小中学校における教育効果測定の試行と表情認知検査の改善を目指した。

その結果、小中学校における教育効果測定の試行については、実践校の負担を考慮し、既に行われているアンケートを優先させ、児童自立支援施設における表情認知検査の実施を継続し、データの蓄積に努めた。表情認知検査の改善については、小学生4・5年生を対象に成人版表情認知検査の実施、ならびに成人を対象に子ども版・成人版表情認知検査の

実施によって、引き続き表情認知検査の妥当性と信頼性を検討した。

2. 実装活動の具体的内容

●小中学校での実装

小中学校での対人関係能力育成プログラム（SEL-8S）の実装に向けて、a)研究開発段階での実践校での実践の継続、b)新しい実践校の実践支援、c)実践交流会・研修会の開催、d)SEL-8S学習プログラムの改善（教材等の追加）を目指した。

a) 研究開発段階での実践校での実践の継続

開発段階で実践を行っていた3校のうち、実装段階では2校（小1，中1）において実践が継続されている。各実践校では、平成26年の6月と平成26年の12月に質問紙調査を行い、児童生徒の8つの社会的能力、規範意識、および自尊感情について測定した。こうして測定したデータを、各実践校において、専用の集計ソフト（本プロジェクトが開発したもの）を用いて集計し、SEL-8Sプログラムの学習効果を確認した。各実践校が集計したデータを本グループが回収し、後述するb)の実践校のデータと合わせて、分析を行った。

b) 新しい実践校の実践支援

前年（平成25年）度にSEL8実践研究会に登録して実践校となった小学校7校，中学校4校，および小中一貫（教育）校1ブロック（小1，中1）のうち，小学校6校，中学校3校，および小中一貫校1ブロック（小1，中1）が平成26年度においても実践校としての登録を継続した。さらに，小学校2校，中学校4校が平成26年度から新たにSEL8実践研究会の実践校となった。こうしたSEL8実践研究会の実践校に加えて，本プロジェクトメンバーが在籍する小学校を含む中学校ブロック（小4，中1：非一貫教育）でもSEL-8Sプログラムの実践が行われた。以上の実践校とa)を合計すると，平成26年度における実践校の数は小学校10校，中学校8校，小中一貫（教育）校2ブロック（小4，中2）の計24校となった。

これらの実践校において，SEL-8Sプログラムが教育課程に位置付けられて実践された。平成26年度から新たにSEL8実践研究会に加入した実践校に対しては，実践に先立ち，必要に応じてSEL-8Sプログラムの資料を配布し，円滑な実践を行えるように支援した。また，すべての実践校に対し前年度の平成25年度における本プロジェクトの研究成果をフィードバックし，実践のうえでの参考となるように支援した。さらに，可能な限り各実践校でのSEL-8Sプログラムに関する校内研修に参加し，プログラムの実践についての講習を行うことで，各実践校における実践を支援した。また，後述するコーディネーター的教員を対象とした研修会を開催し，SEL-8Sプログラムに関する知識・技能の向上を支援した。

SEL-8Sプログラムの有効性を検証するために，SEL-8Sプログラムを実践した24校に質問紙調査を依頼し，そのうち23校から報告を受け取り，それを元にSEL-8Sプログラムの効果を分析した。その結果，教師による評定では8つの社会的能力および3つの規範行動の因子すべてにおいて好ましい得点の増加が見られた（図1）。ただし，児童生徒による自己評定では全般的に能力の変化が見られなかった。これは，SEL-8Sプログラムを通して児童生徒の自己評価の基準が厳しくなったためではないかと考えられる。

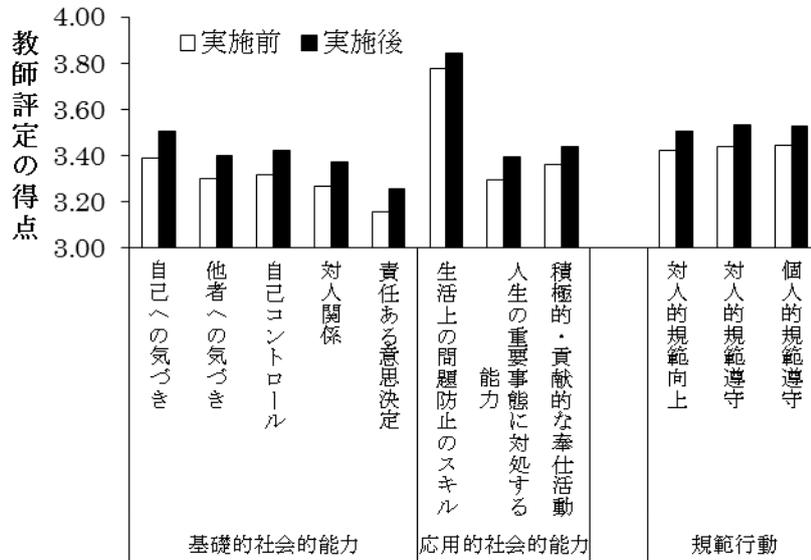


図1 SEL-8Sプログラムの実践に伴う児童生徒の社会的能力と規範行動の変化
(注) 小1～中3の141学級が対象の教師評定 (1.00=できる～5.00できない)

また、犯罪の加害・被害につながるような問題行動（いじめ・暴力・万引き等を含む）に対するSEL-8Sプログラムの有効性を調べるために、調査報告を受けた23校のうち、平成25・26年度で継続してSEL-8Sプログラムを実践し、問題行動発生件数の分析のために必要なデータが揃っていた13校を対象に、2年間にわたる問題行動発生件数を調べた。その結果、これらの学校では問題行動発生件数が平成25年度の3学期に低下したままの水準が、平成26年度も維持されていた（図2）。これは、長期的な実践による成果の一つと考えられる。

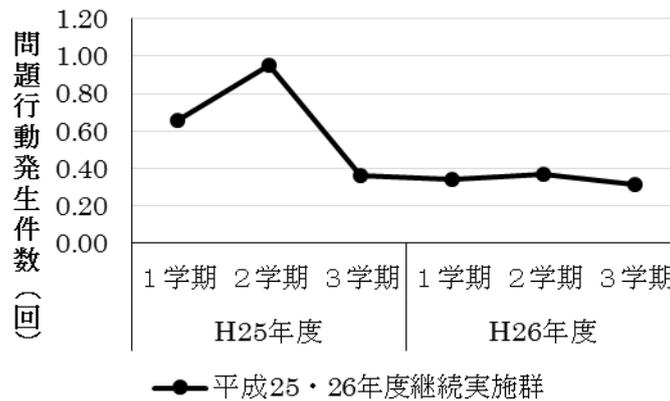


図2 問題行動発生件数の推移（小中13校，129学級）
(注) 縦軸は1学期あたりの学級ごとの問題行動の発生件数を表す。

さらに、SEL-8Sプログラムを実践している小中学校の教師（小6校と中3校の132人）に対し、SEL-8Sの有効性に関するアンケート調査を行ったところ、「SELは、生徒指導上の問題（いじめ、けんか、万引き等）の加害や被害の減少につながる学習だと思いますか。」と

という質問に対し、「とてもそう思う」という回答が全体の38%、「少しそう思う」という回答が54%得られ、合わせて92%を超える結果となった(表1)。こうしたことから、SEL-8Sプログラムが問題行動の予防に有効であることを、教師が実感していることが明らかになった。

表1 教員を対象としたSEL-8Sプログラムに関するアンケートの結果

問. SELは、生徒指導上の問題(いじめ、けんか、万引き等)の加害や被害の減少につながる学習だと思いますか。

	回答数	割合	累積 %
5 とてもそう思う	50	38%	38%
4 少しそう思う	71	54%	92%
3 どちらとも言えない	9	7%	98%
2 あまり思わない	1	1%	99%
1 全く思わない	1	1%	100%

c) 実践交流会・研修会の開催

実践校のコーディネーター的教員を対象とした研修会を平成26年10月30日と11月5日の2回開催した。この2回の研修会の内容はほぼ同一の内容であり、各学校の校内行事等を考慮して、できるだけ多くの参加者を得られるように複数回設定した。この研修会は各実践校のコーディネーター的教員を対象とした研修会であったが、本プロジェクトの公式ウェブサイトにおいても開催の告知を行っていたため、実践校以外の学校からも参加の申込みがあり、久留米市や鳥取市の小学校の教員など、全27名の参加があった。研修会では、実践校の教員の中から代表者2名(各回ともに小学校教員1名、中学校教員1名)が在籍校でのSEL-8Sの取組を紹介した。紹介の後には質疑応答の時間もあり、各参加者が積極的な意見交換を行った。さらに、本プロジェクト実装責任者がSEL-8Sに関する講習を行い、参加者の知識・技能の向上を促した。

また、SEL-8Sプログラムに関心のある教員を対象とした研修会を平成26年6月14日と6月28日、および8月23日と9月13日の計4回開催した。この研修会は2回で1シリーズとなり、2シリーズを開催した。研修会では、本プロジェクト実装責任者がSEL-8Sの概要や授業の進め方に関する講習を行うとともに、参加者が児童生徒の立場となってSEL-8Sプログラムを実際に体験するワークショップなども行った。研修会には、福岡県をはじめ、大分県、徳島県、広島県の小中学校教員など18名(延べ25名)が参加した。

d) SEL-8S学習プログラムの改善

SEL-8Sプログラムの実装に向けた取り組みとして、SEL-8Sの学習効果測定に用いるアンケート用紙や集計ソフトの修正・改善を行った。具体的には、中学生用児童生徒自己評定アンケート用紙の質問項目を再構成した。さらに、児童生徒自己評定アンケート用紙と集計ソフト、および教師評定入力&集計ソフトをより利用しやすいように仕様変更した。また、こうして修正・改善したアンケート用紙や集計ソフトを本プロジェクトの公式ウェブサイトアップロードし、実践校をはじめ広く一般に利用されるように工夫した。さらに、SEL-8Sプログラムの学習ユニットの構成を学習領域ごとにまとめた概念図を公式ウェブサ

イト上で公開した。

●児童自立支援施設での実装

児童自立支援施設等における再犯防止学習プログラム(SEL-8D)の普及・実装に向けて、e) 児童自立支援施設での実践継続、f) 児童自立支援施設内併設の小中学校での実践継続、g) 新しい実践施設の開発・支援、h) SEL-8D学習プログラムの改善を目指した。

e) 児童自立支援施設での実践継続

これまで実践を行ってきた児童自立支援施設において、今年度は所属長(園長)の異動があり、新所属長に対し、改めてSEL-8Dの概要と実践について説明を行い、実践継続について理解・承諾を得たことから、昨年度と同様に男子寮での実践を継続できた。プログラム実践の場は、オープンにし、SEL-8Dに興味・関心がある施設職員の見学も受け入れ、場合によってはプログラムの一部に参加して戴き、施設職員全体へのSEL-8Dプログラムの理解や定着の促進に努めた。また今年度は、新たな試みとして、将来的な普及を見据え、SEL-8Dに興味関心がある臨床心理学を専攻する大学院生をリーダー、コ・リーダーとして受け入れた。参加児童にとって、大学院生は年齢的にも接近していることから、概ね好評であったとみている。

本年度の実践は、H26年9月に開始し、H27年3月上旬に終了した。プログラムの評価については、基準となる参加児童の情動的知性のデータを得るために、実践開始直後のH26年9月に事前テストを行い、実践後の変化を測定する事後テストをH26年3月中旬に実施する予定である(本稿執筆時においては未実施)。

収集したデータの事前テストの結果については、教育評価測定グループによる集計処理を経て、施設側にフィードバックした。なお、事後テストの結果については、3月中旬以降に分析着手する予定である。

f) 児童自立支援施設内併設の小中学校での実践継続

児童自立支援施設を通じ、施設内併設校にSEL-8D実践を働きかける予定であったが、施設内での児童指導のあり方が検証され、施設の機構改革とともに大型の人事異動がなされたことから、施設側に余裕がなく、十分な働きかけを行うことができなかった。このように今年度は併設校での実践には至らなかったものの、併設校の教員がプログラム実践の場を見学し、ロールプレイに参加することもあり、プログラムに対する理解を深める機会は得られたといえる。

g) 新しい実践施設の開発・支援

普及促進の一手段として継続しているSEL-8D収録CDの無償頒布については、下記の表2・表3に示したとおり、教育機関(教育委員会や小中学校等)や児童福祉機関(児童相談所や児童養護施設等)、非行臨床機関(少年サポートセンターや少年院)など問い合わせがあった合計37の施設・機関に送付した。

本プロジェクトのWEBサイトである『学校等における犯罪の加害・被害防止のための対人関係能力育成プログラム実装』を通じて頒布情報を発信していることもあり、九州をはじめ、中国・四国、近畿、北陸、関東、東北とほぼ全国から問い合わせがあった。

上記「e)児童自立支援施設での実践継続」節でも述べたとおり、今年度はSEL-8Dの将

来的な普及へと繋げるために、臨床心理学を学ぶ大学院生にリーダー・コリーダーとしてプログラムに参加してもらい、プログラムそのものや進行の技術習得を支援した。

また、福岡と茨城で講習会を行い、非行臨床（家裁調査官，保護観察官，保護司，法務教官，少年事件の弁護士など）や臨床の専門家（心理士，産業カウンセラー，産業医など）に対し，非行少年の心理特徴とSEL-8Dについてレクチャーをした。参加者の中にはSEL-8Dの実践や教材を使用したいとの声もあり，今後のフォローによりさらなる普及に結びつけたい。

表2 機関別CD請求件数		表3 県別CD請求件数	
機関名	請求件数	県名	請求件数
教育委員会	4	青森	1
児童相談所	2	秋田	1
少年院	1	岩手	4
児童自立支援施設内分校	3	宮城	2
高校(定時制含む)	2	新潟	1
中学校	8	群馬	4
小学校	5	栃木	1
大学・大学院	9	千葉	1
特別支援学校	1	東京	4
スクールカウンセラー	2	岐阜	1
合計	37	愛知	3
		三重	1
		大阪	1
		岡山	2
		徳島	1
		福岡	1
		佐賀	1
		長崎	1
		大分	4
		宮崎	1
		沖縄	1
		合計	37

h) SEL-8D学習プログラムの改善

SEL-8D学習プログラムの社会的実装に向けた取り組みとして，現存ユニットの修正・改善を行った。今年度は毎回のセッションごとに参加児童に対するアンケートを実施し，学習したスキルの理解度を確認するとともに，分かりづらいプログラムの手順や教材などについて検討した。また児童自立支援施設は児童の受け入れを随時行っていることから，実践期間の途中から新入児童がプログラムに参加することも度々生じていた。このように途中参加する新入児童のスムーズな受け入れのための指導手順を作成した。

●教育効果の測定

i) 集計と評価の支援

当初，小中学校での対人関係能力育成プログラム（SEL-8S）の効果測定の一つとして表

情認知検査を実施する予定であったが、実践校の負担を考慮し、既に行われているアンケートを利用した効果測定を優先させた。

また、再犯防止学習プログラム（SEL-8D）に関しては、効果測定に必要なデータ収集を行うため、児童自立支援施設での実装グループの協力のもとで表情認知検査を実施した。プログラム実施前の事前テストの分析を行い、結果をフィードバックした。また、H26年3月中旬に実施される事後テストのデータをもとに効果について分析を行う予定である。

さらに、表情認知検査の改善のために小学生4・5年生を対象に成人版表情認知検査の実施、ならびに成人を対象に子ども版・成人版表情認知検査を実施した。その結果、成人の表情を刺激とした場合、悲しみの2つの刺激において小学生の方が大学生に比べて有意に表情の識別が難しく、逆に驚きの4つの刺激において大学生の方が小学生と比べて有意に表情の識別が難しいことが分かった。成人を対象にした子ども版・成人版双方の表情認知検査の実施においては、各版の能力値の相関係数が0.46で、有意な相関が見られた。このことから、子ども版と成人版で測定された表情認知能力にはある程度関連性があるといえる。

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト

(2) 研修会，講習会，観察会，懇談会，シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2014年 11月7日	日本教育心理学会 第56回総会	神戸国際会議場	自主企画シンポジウム『予防的心理教育プログラムの導入と展開 ―学校間や学校・関係機関間の連携での“壁”を乗り越えるには？―』を開催した。本プロジェクトからは、小泉が企画・話題提供、高松が企画、山田が司会、三淵・松本・柴原が話題提供を行った。その他、窪田由紀氏（名古屋大学）が指定討論を行った。	研究者・ 学校教員	約50名
2014年	児童生徒の社会的	福岡教育大学	各学校でSEL-8Sプログラ	学校教員	8名

10月30日	能力育成に関するコーディネーター的教員研修会（1回目）		ムの導入・推進の中心となる教員（コーディネーター的教員）を対象に、取組の手順や計画の立案などに関する情報交換と知識・技能の向上を目的とした研修会を開催した。		
2014年11月5日	児童生徒の社会的能力育成に関するコーディネーター的教員研修会（2回目）	福岡教育大学	同上 （各実践校のコーディネーター的教員には可能な限りどちらかの日に参加するよう促した）	学校教員	19名
2014年10月27日	更生保護「ひまわりネット」学習会（福岡保護観察所主催）	福岡市NPO・ボランティアセンター「あすみん」	福岡市内の更生保護に携わる実務家（保護司，保護観察官，家裁調査官，弁護士，少年院職員など）を対象に，非行少年の社会・心理的背景，並びにSEL-8Dの概要や，実施手順や効果等について解説した。	保護司 保護観察官，少年院職員，家庭裁判所調査官，弁護士など	約30名
2014年6月	2014年度SEL-8S教員研修会（1シリーズ目）	福岡教育大学	SEL-8Sプログラムに関心のある教員を対象に，プログラムの概要や授業の進め方に関する知識の獲得を目的とした全2回からなる研修会を開催した。（第1回6月14日，第2回6月28日）	学校教員	18名 （延べ25名）
2014年8～9月	2014年度SEL-8S教員研修会（2シリーズ目）	福岡教育大学	全2回からなる研修会を開催した。概要は同上。（第1回8月23日，第2回9月13日）	学校教員	
2015年3月4日	ひたちなかメンタルヘルス勉強会	社会福祉法人町にくらす会 地域活動支援センター	茨城県内でメンタルヘルスに携わる実務家（スクールカウンセラー，養護施設職員，産業医，産業カウンセラーなど）を対象に，非行少年の社会・心理的背景，並びにSEL-8Dの概要や，実施手順や効果等について解説した。	スクールカウンセラー，養護施設職員，産業医，産業カウンセラーなど	約20名

（3）新聞報道，TV放映，ラジオ報道，雑誌掲載等

①新聞報道

- ②TV放映
- ③ラジオ報道
- ④雑誌掲載

(4) 論文発表 (国内誌 5 件, 国際誌 件)

- ・ 井本泰子・小泉令三 (2015). 生徒の社会的能力を育成する心理教育プログラム「SEL-8S」の効果的活用 —プログラム導入期における中学校第1学年での試行と若手教員の変容— 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報, 5, 15-22.
- ・ 香川尚代・小泉令三 (2015). 小学校でのSEL-8Sプログラムの導入による社会的能力の向上と学習定着の効果 日本学校心理士会年報, 7, 97-109.
- ・ 小泉令三 (2015). 一次的援助サービスとしての社会性と情動の学習 (ソーシャル・エモーショナル・ラーニング) 日本学校心理士会年報, 7, 25-35.
- ・ 三淵剛・米山祥平・小泉令三 (2015). 児童の社会的能力自己評定の個人差及び自己評定と教師評定との関係 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報, 5, 1-6.
- ・ 大和和雄・小泉令三 (2015). 家庭と学校で共に育む子どもの学校適応に関する研究 —SEL-8Sプログラムによる人間関係づくりと「共育」の試行的取組— 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報, 5, 47-54.

(5) WEBサイトによる情報公開

プロジェクトウェブサイト『学校等における犯罪の加害・被害防止のための対人関係能力育成プログラム実装』, URL<<https://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/index.html>>

(6) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

- ①招待講演 (国内会議 件, 国際会議 件)
- ②口頭講演 (国内会議 件, 国際会議 1 件)

- ・ Koizumi, R., Takamatsu, K., & Yamada, Y. (2014). Anchor points planting approach in implementing a social and emotional learning program in a school district of 1st to 9th grades. 36th Annual Conference of International School Psychology Association (Lithania, July, 15-18, 2014)
- ・

- ③ポスター発表 (国内会議 4 件, 国際会議 件)

- ・ 松本亜紀・大上渉・友清直子・小泉令三・山田洋平 (2014). 児童自立支援施設における再犯防止学習プログラムの開発と実践3—男子寮におけるSEL-8D学習プログラムの実践効果— 日本心理学会第78回大会 (同志社大学, 2014年9月10-12日)
- ・ 香川尚代・小泉令三 (2014). 児童を対象とした社会的能力の向上と学習への取組促進の効果—SEL-8Sプログラムを活用して— 日本教育心理学会第56

回総会（神戸国際会議場, 2014年11月7-9日）

- ・ 三淵剛・米山祥平・小泉令三 (2014). 児童の社会的能力自己評定の個人差と教師評定との関係 日本教育心理学会第56回総会(神戸国際会議場, 2014年11月7-9日)
- ・ 山田洋平・升野邦江・小泉令三 (2014). 総合的な学習の時間と関連づけた心理教育プログラムの教育効果—中学校でのSEL-8Sプログラムの活用— 日本教育心理学会第56回総会（神戸国際会議場, 2014年11月7-9日）

(7) 特許出願

①国内出願（_____件）

1. “発明の名称, 発明者, 出願人, 出願日, 出願番号”
- 2.
- ...

②海外出願（_____件）

1. “発明の名称, 発明者, 出願人, 出願日, 出願番号”
- 2.
- ...

(8) その他特記事項